



町田高校2年生の数学の授業。生徒がiPadに書き込んだ解答が、黒板に貼ったスクリーンに映し出される

## iPadを活用 広がる学びの幅

2012年に東京都教育委員会から「都立学校ICT活用推進校」の指定を受けるなど、パソコンやプロジェクトを取り入れた授業展開に積極的な町田高校（以下、町高）。大学入学共通テストにデジタル技術を活用する方式「CBT」の検討が始まったこともあり、2018年度からはすべての生徒と教員にiPadを導入している。

授業での活用度は教科の特性によりさまざまだが、グラフや3D地図などで視覚的なわかりやすさが格段に向上。模試の結果と連動させることで弱点を分析しやすくなり、動画教材により事前学習を進める「反転授業」の実施も可能となった。そのほか、海外の高校とのオンライン通信や災害時の帰路確認、委員会の活動報告など、あらゆる場面に活用の幅が広がっている。

生徒の主体性を伸ばし、実践力を育成する町高の特色は、iPadの利用にもあらわれる。情報モラルは指導するが、基本的に扱い方は生徒の自由だ。情報科

の小原格指導教諭は、「部活動でフォームを確認したり、問題集を撮影して画面に専用ペンで書き消したり。生徒たちは我々の想像を超え、柔軟に使いこなしている」と感心する。

早くからICT教育の土壌が整備されていたことで、新型コロナウイルス感染拡大により休校措置がとられた際も遠隔授業への移行がスムーズだった。学習の遅れを軽減できたことはもちろん、オンライン交流により生徒の孤立を防げたことも大きな成果だった。

教科書、ノート、資料、発表ツールなど、さまざまな役割を果たすiPad。「今や町高の学習活動に欠かせない」と評価する小原指導教諭は、最後にこう付け加えた。「ただ、機械がすべてを解決できるわけではない。コミュニケーションがあつてこそ、初めて学校であると思います」

## きめ細やかな教育 進化する学習指導

軽やかにキーボードを叩く音が広がる教室で、担当がノートパソコンを片手に

机間指導する。町田第三小学校では、今や当たり前となった風景だ。

4年前からプログラミング教育を推進する同校では2020年12月に全児童のノートパソコンを導入。1人1台の端末環境が実現した。各教科での積極的活用を進め、児童がアプリで調査や意見共有を行い、学習課題の解決に取り組む。算数ではAIが児童の習熟度に合わせて出題する個別最適化学習にも取り組む。

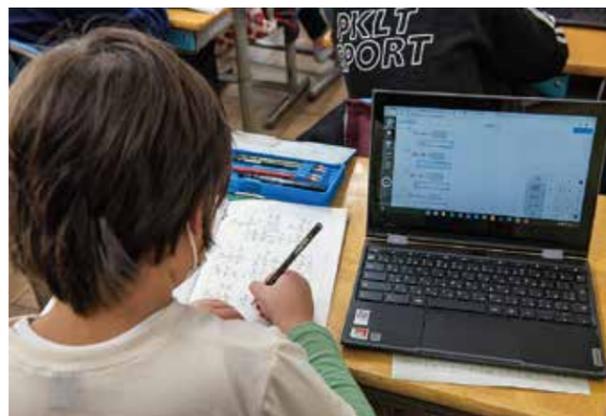
ICTの活用により、授業では教員が児童の学習進捗状況を手元のパソコンでリアルタイムで確認し、細やかなケアを実現。採点作業がアプリの活用で短縮され、児童の学習効率や個別指導の充実が図れる。特に、コロナ禍ではオンライン会議や資料共有、オンライン児童集会、授業での共同編集ツールの活用などで効果を発揮。宇田洗希教諭や大迫千昌教諭は「作業等が軽減され、児童と向き合う時間をさらに確保できる」と話す。

野末直美校長は、「ICTはこれからの時代、児童にとって日常的な学習アイテム。主体的・対話的な学びを通して、考えを深める力を育てていきたい」と、さらに活用の幅を広げていく構えだ。

特集

# コロナ新時代を生きる

新型コロナウイルスの感染拡大により、一躍脚光を浴びるようになったオンラインサービス。会議、診療、接客など、あらゆる場面でパソコンやタブレットなどを活用した遠隔交流が新たなスタンダードとなりつつある。そのひとつが教育。先進的にICT教育に取り組む町田高校、町田第三小学校を取材した。



パソコンとノートを駆使しながら勉強に励む



町田第三小学校の個別最適化学習を取り入れた算数の授業風景